

論説

2023・8・23

「全責任」を持てるのか

処理水放出

東京電力福島第一原発にたまり続ける「処理水」が海に流される。「国際原子力機関」が「安全な」と認めたとしても、日本政府が「全責任」を持てるのか。日本政府が「全責任」を持てるのか。日本政府が「全責任」を持てるのか。

福島第一原発は、事故で海水を冷却した核燃料棒を冷やすため、大量の冷却水をかきあげている。そのうち地下水や雨水が加わって、「処理水」が毎日約九千トンずつ出続けている。その「処理水」から多核種放射性物質（ALPS）で大半の放射性物質を取り除いたものが「処理水」だ。

原発内には「処理水」を貯える「処理水」のタンクが林立して、廃止作業の妨げにならないように、政府はあつちやと、隣国を国境を越えて運ぶことなど、海に流す方針を決めた。ALPSを用いても、放射性物質はわずかに残る。三十年間放出し続けられる膨大な量になる。国際原子力機関（IAEA）の調査報告書は、この点を指摘している。



「全責任」を持てるのか

政府は東電は八年間、福島第一原発の処理水を海に流す計画を「全責任」で実行する。日本政府が「全責任」を持てるのか。日本政府が「全責任」を持てるのか。日本政府が「全責任」を持てるのか。

日本の水産物輸出先一位の中国は先月から輸入検査を強化。七月に輸入量は前月の比で三割以上減少した。琵琶湖に放出された放射性物質が琵琶湖を汚染する。